

詳細調査の全面中止を！！

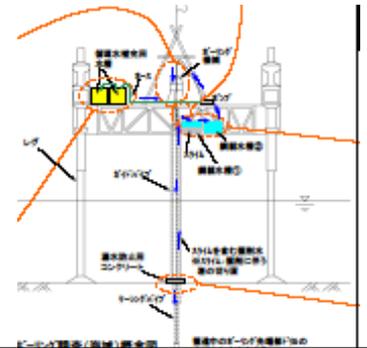
告発 やっぱり あった！！海底ボーリング漏水

～長島の自然を守る会～

去る11月16日の申し入れで、海底ボーリングでの漏水の疑いを指摘したにもかかわらず、中国電力は総点検報告書の中で、「掘削水の循環使用を行っていること、漏水防止用コンクリートを打設していること等、確実に実施しており、環境保全計画を遵守していた。」と記載。山口県も「これまでの対応に誠意と責任が認められ、県民を代表して信頼する」と調査再開を容認した矢先のことである！！

10月15～16の潜水調査で発見した漏水の痕

漏水防止用コンクリートとガイドパイプの間にできた隙間



中国電力の総点検報告書より（ガイドパイプの周囲を漏水防止用コンクリートで固めた写真）
さも、万全のように見受けられるが、現実には？



コンクリートとガイドパイプの間を埋めるが、掘削面が露出。易なパテが無残にはがれ、掘削面が露出。



はがれたパテは浮いており、コンクリートとガイドパイプの間には、約10cmの隙間があった！
今回は、より根本的な工法の欠陥と推察される！！

7～9月調査で確認した田ノ浦海岸部の異変



陸域ボーリング地点の崖下から沁み出している泥水

* どす黒く、油のようなものが混じっている

潮溜まりには多数の
カニの死骸が・・・



崖下にしみ出た泥の堆積物
* 腐敗臭が強く、真っ黒
になっている



潮間帯の泥 嫌気化し、腐敗臭が強い

裏返した岩の裏側は嫌気
化し、黒ずんでいる



オオブクの新鮮な死体が大量に打ち上がって
いました。比較的深いところの砂地の中に生息し
ているので、一時に死んでから波に打ち上げられ
たのではないかと思います。(7/24撮影)

10・15～16調査で明らかになった海岸部の異変

長島の自然を守る会は、ボーリング調査の影響を科学的に検証するため、10月15～16日に生態学会やベントス学会の研究者と調査を行いました。現在、ボーリングが中止され、海岸部の泥の腐敗などは一定鎮静化しているものの、細かい砂の堆積によるダメージからは回復していません。ダメージは主に波あたりの強い西北部海岸に顕著ですが、南部海岸にも広がりつつあります。

西北部潮間帯では石の表面に白い細かい粘土様の付着物がこびりつき、希少生物のカサシャミセンの死殻（1～2ヶ月以内に死んだもの）をはじめ確認しました。また、2005年5月に7種類確認されたミミズハゼが今回は4種類しか確認できませんでした。特に田ノ浦では多数確認されていた「オオミミズハゼ」が1個体も見つからなかったのは、環境の変化によるものではないかと加藤真京都大学大学院教授は指摘しています。オオミミズハゼは外洋系の岩礫海岸を生息場所としており、泥の堆積などがあれば、生息環境を奪われ、急激に減少する可能性があります。

南部海岸でも11月14日調査でカンザシゴカイのおびただしい死殻を確認しました。



カサシャミセンの死殻（2005年10月）



カサシャミセン生体（2005年5月）石の上の付着物（白く見える部分）



カンザシゴカイの死殻（南部）

海底部に降り積もる浮泥とにごり

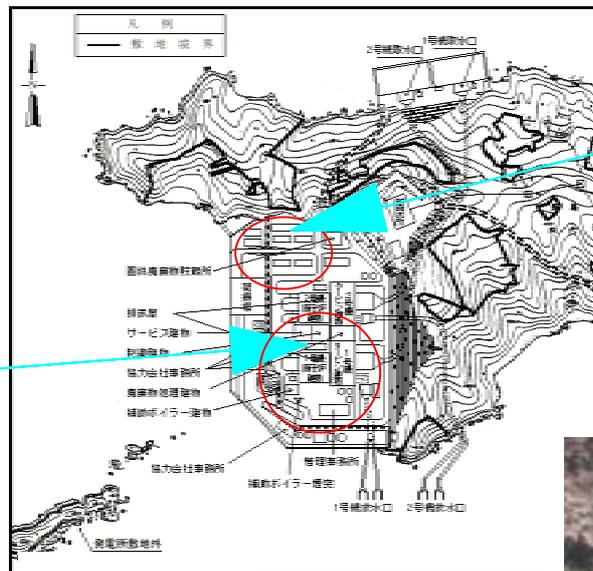
潜水調査の結果、西北側の海底の海藻の上に浮泥がたまり、生物の種数が減った一方、細かい砂地に生息するスカシカシパンが急増しています。南側の海底は以前と殆ど変わりありませんでした。これは岩礫部の異変と一致するもので影響が海底部分まで及んでいることを示しています。



西北部海底の海藻に積もった泥



急増したスカシカシパン



波あたりの強い南部海底は西北部に比べ透明度が高い。今後悪化が懸念される



ずさんな中国電力の環境保全計画

長島の自然を守る会の指摘で発覚！！

陸域ボーリングの垂れ流し

中国電力は県に提出した環境保全計画で「ボーリングに使用した濁水は循環させ外部には出さない」としていましたが、4月から9月9日まで垂れ流していました。



ボーリング地点



ボーリングに使用された泥水が釜場から垂れ流された現場写真



ボーリング地点

9月15日の申し入れ時点で指摘したにもかかわらず、中国電力は否定。
総点検報告書でようやく事実を認めるお粗末さである。



やぐら真下の泥を漉す容器から泥が垂れ流された痕



ボーリングやぐら下の地面が垂れ流された泥水で白く変色している。